## 殺菌剤

協友

# スターナ®水和剤

オキソリニック酸…… 20.0%

種類名／オキソリニック酸水和剤
農林水産省登録／第21735号
毒性／普通物*
有効年限／4年
包装／100g×100、500g×20

## 特　長

- 本剤は有機合成による細菌病専用防除剤です。
- 稲のもみ枯細菌病、褐条病、苗立枯細菌病や園芸作物の軟腐病等に対して効果を発揮します。
- 基本作用性は病原細菌の増殖抑制効果です。

## 適用病害と使用法

使用にあたっては必ずラベルを読んで下さい。

| 作物名 | 適用病害名 | 希釈倍数 | 使用液量 | 使用時期 | 総使用回数* | 使用方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 稲 | もみ枯細菌病<br>苗立枯細菌病<br>褐条病 | 20倍 | — | 浸種前 | 本剤　1回<br>オキソリニック酸剤　1回 | 10分間<br>種子浸漬 |
| | | | | 浸種後 | | |
| | | 7.5倍 | 乾燥種籾<br>1kg当り<br>30㎖ | 浸種前 | | 吹き付け処理<br>(種子消毒機使用)又は<br>塗沫処理 |
| | もみ枯細菌病 | 400倍 | — | | | 24時間<br>種子浸漬 |
| | 苗立枯細菌病<br>褐条病 | 200倍 | | | | |
| | もみ枯細菌病 | 400～800倍 | | | | 48～72時間<br>種子浸漬 |
| | | 200倍 | | | | 5～24時間<br>種子浸漬 |
| | | | | 浸種後 | | 5時間<br>種子浸漬 |
| | | 乾燥種子重量の<br>0.3～0.5% | | 浸種前 | | 種子粉衣<br>(湿粉衣) |
| | 苗立枯細菌病<br>褐条病 | 乾燥種子重量の<br>0.5% | | | | |
| な　し | 枝枯細菌病 | 1000倍 | 200～700ℓ<br>/10a | 収穫45日前<br>まで | 3回 | 散布 |
| もも<br>ネクタリン | せん孔細菌病 | | | 収穫7日前<br>まで | | |
| 小粒核果類<br>(すももを除く) | かいよう病 | | | | | |
| すもも | かいよう病<br>黒斑病 | | | | | |
| はくさい<br>キャベツ | 軟腐病<br>黒斑細菌病 | | 100～300ℓ<br>/10a | | | |
| ブロッコリー | 軟腐病<br>黒斑細菌病<br>花蕾腐敗病 | 2000倍 | | 収穫14日前<br>まで | 2回 | |
| だいこん | 軟腐病 | 1000倍 | | | 5回 | |
| カリフラワー | | 2000倍 | | | 2回 | |
| はなっこりー | | | | 収穫前日まで | | |

（つづく）

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害名</th><th>希釈倍数</th><th>使用液量</th><th>使用時期</th><th>総使用回数*</th><th>使用方法</th></tr>
<tr><td>ピーマン</td><td>軟腐病<br>斑点細菌病</td><td rowspan="2">2000倍</td><td rowspan="5">100～300ℓ<br>/10a</td><td>収穫前日まで</td><td rowspan="2">3回</td><td rowspan="5">散布</td></tr>
<tr><td>ねぎ</td><td>軟腐病</td><td rowspan="3">収穫7日前<br>まで</td></tr>
<tr><td>たまねぎ</td><td>軟腐病<br>りん片腐敗病</td><td rowspan="3">1000倍</td><td>5回</td></tr>
<tr><td>ばれいしょ</td><td>軟腐病</td><td>本剤　5回<br>オキソリニック酸剤　5回<br>［種いも浸漬は1回］</td></tr>
<tr><td rowspan="2">こんにゃく</td><td rowspan="2">腐敗病</td><td>収穫14日前<br>まで</td><td>本剤　5回<br>オキソリニック酸剤　6回<br>［種いもへの<br>吹き付けは1回<br>植付後は5回］</td></tr>
<tr><td>30～100倍</td><td>種いも<br>1m²当り<br>150mℓ</td><td>植付前</td><td>本剤　1回<br>オキソリニック酸剤　6回<br>［種いもへの<br>吹き付けは1回<br>植付後は5回］</td><td>種いも<br>吹き付け処理</td></tr>
<tr><td>レタス</td><td rowspan="2">軟腐病<br>腐敗病<br>斑点細菌病</td><td rowspan="7">2000倍</td><td rowspan="12">100～300ℓ<br>/10a</td><td>収穫7日前<br>まで</td><td rowspan="4">2回</td><td rowspan="12">散布</td></tr>
<tr><td>非結球レタス</td><td>収穫14日前<br>まで</td></tr>
<tr><td>トレビス</td><td>萎凋細菌病</td><td>収穫3日前<br>まで</td></tr>
<tr><td>エンダイブ</td><td rowspan="7">軟腐病</td><td rowspan="3">収穫14日前<br>まで</td></tr>
<tr><td>セルリー</td><td>3回</td></tr>
<tr><td>パセリ</td><td rowspan="2">2回</td></tr>
<tr><td>チンゲンサイ</td><td rowspan="3">1000倍</td><td rowspan="4">収穫7日前<br>まで</td></tr>
<tr><td>らっきょう</td><td>3回</td></tr>
<tr><td>さんとうさい</td><td rowspan="2">2000倍</td><td rowspan="2">2回</td></tr>
<tr><td>アスパラガス</td><td>100～500ℓ<br>/10a</td><td>収穫前日まで</td></tr>
<tr><td>ズッキーニ</td><td>軟腐細菌病</td><td rowspan="4">1000倍</td><td rowspan="3">100～300ℓ<br>/10a</td><td></td><td rowspan="3">3回</td></tr>
<tr><td>にんじん</td><td>軟腐病<br>斑点細菌病</td><td>収穫7日前<br>まで</td></tr>
<tr><td>未成熟<br>とうもろこし</td><td>褐色腐敗病</td><td>収穫前日まで</td></tr>
<tr><td>茶</td><td>赤焼病</td><td>200～400ℓ<br>/10a</td><td>摘採7日前<br>まで</td><td>2回</td></tr>
<tr><td>きく</td><td>斑点細菌病</td><td>100～300ℓ<br>/10a</td><td>—</td><td>5回</td></tr>
<tr><td>カラー</td><td>軟腐病</td><td>30倍</td><td>球根100kg<br>当り1～3ℓ</td><td>定植前</td><td>1回</td><td>球根吹き付け<br>処理</td></tr>
<tr><td>たばこ</td><td>空胴病</td><td>1000～1500倍</td><td>25～180ℓ<br>/10a</td><td>収穫10日前<br>まで</td><td>2回</td><td>散布</td></tr>
</table>

## 上手な使い方

【園芸作物】

- 実用場面では病勢が進展してからの散布では効果（治療的効果）は期待できないので、作物の生育ステージと気象条件をみながら、発病前からの散布（予防的防除）を徹底してください。
- 第1回散布後は作物毎の使用回数および日数と残効性を考慮し、1週間間隔の散布を基本とします。ただし、病勢進展が早ければ、早め早めの散布を心がけてください。
- 一般的には本剤のみの防除に頼るのではなく、他に有効薬剤があればそれも活用することが望まれます。

【水稲の種子消毒】

- 種子消毒では、適切な育苗管理（高温・多湿をさける等）が基本であり、スターナを種籾に十分付着させてください。
- スターナの種子消毒には粉衣、浸漬および塗沫処理の3通りがあります。また、浸漬処理では乾籾浸漬処理と浸種後浸漬処理いずれも可能です。

## 使用にあたって

**■使用上の注意**

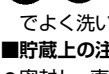
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 浸漬処理の場合は、籾と薬液の容量比は1:1以上とし、種籾はサラン網など粗目の袋を用い、薬液処理時によくゆすってください。
- 長時間浸漬の場合は、浸漬処理中に1～2回撹拌してください。
- 粉衣処理は付着をよくするため、湿粉衣としてください。
- 薬液処理した種籾は、風乾後、水洗いせずに浸種してください。
- 消毒後の浸種は水槽で行い、水の交換は原則として初めの2日間は行わないでください。その後水を換える場合は静かに行ってください。
- 稲に吹き付け処理する場合、種子消毒機を使用し、種籾に均一に付着させて乾燥してください。また、塗沫処理の場合は、適当な容器内で種籾を撹拌しながら、薬液を滴下するなどして、種籾に均一に付着させてください。
- カラーに吹き付け処理する場合、噴霧器を使用し、球根全体に薬液を付着させてください。また、薬剤処理後、風乾してから球根を定植してください。
- 野菜類の細菌病に使用する場合、多発条件下では効果が劣る例もみられるので注意してください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合には、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

**■水産動植物への注意**

- 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

**■安全使用上の注意**

- 誤飲、誤食などのないように注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当てを受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当てを受けてください。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。



- 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。また、散布液を吸い込んだり浴びたりしないように注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。

**■貯蔵上の注意**

- 密封し、直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に保管してください。

本資料の記載内容は2025年12月24日現在の登録内容に基づいています。